



ボーダフォン株式会社

2006年3月期 決算説明会

2006年 5月 30日



藤原 和彦

常務執行役 財務本部長 (CFO)

建石 成一

執行役 財務本部副本部長

後藤 芳光

取締役

決算ハイライト: 連結PL

■ 対前年比較

- 売上高: 前年比0.2%減少
加入者数は純増基調へ、ARPUは減少
- 営業利益: 前年比51.7%減少
積極的な顧客獲得・維持活動により、当該関連費用が増加

(単位: 億円)	2004年度	2005年度	増減	前年比 (%)
売上高	14,700	14,676	-24	-0.2%
営業費用	13,120	13,913	793	6.0%
減価償却費	2,369	2,161	-208	-8.8%
営業利益	1,580	763	-817	-51.7%
経常利益	1,534	744	-790	-51.5%
当期利益	1,620	495	-1,125	-69.4%
EBITDA	4,031	3,009	-1,022	-25.4%
EBITDAマージン	27.4%	20.5%	-6.9 pp	-
設備投資(計上ベース)	1,743	2,398	655	37.6%

決算ハイライト: 連結BS、CF

BS

(単位: 億円)	2004年度	2005年度	増減
固定資産	10,604	10,474	-130
電通固定資産	9,590	9,685	95
投資等	1,015	789	-226
流動資産	3,040	3,084	44
総資産	13,644	13,558	-86
固定負債	1,713	1,440	-273
流動負債	4,828	4,541	-287
負債計	6,541	5,981	-560
資本計	7,103	7,577	474
負債・資本計	13,644	13,558	-86

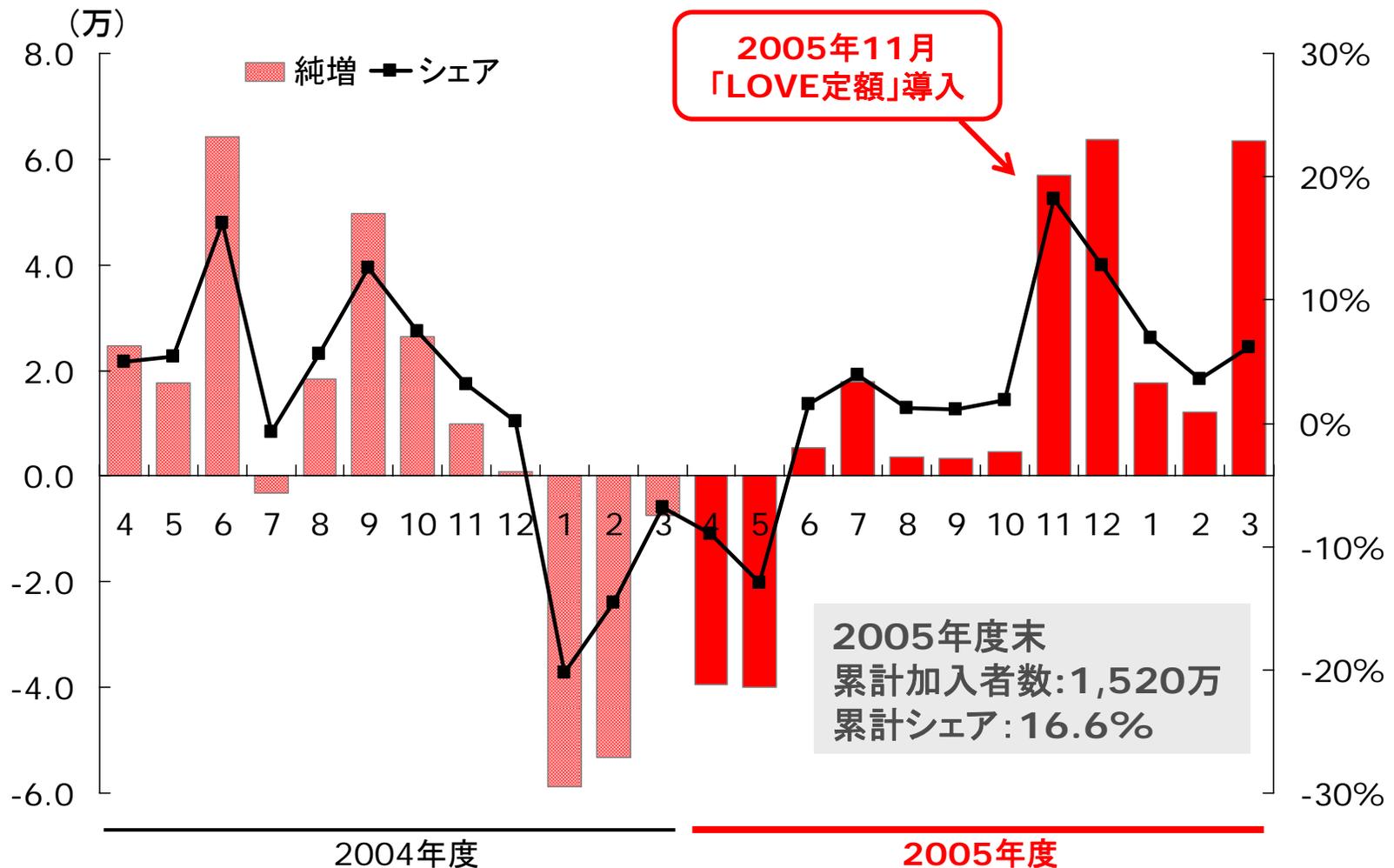
CF

(単位: 億円)	2004年度	2005年度
営業活動によるCF	3,989	3,017
投資活動によるCF	-1,324	-1,906
財務活動によるCF	-2,667	-786
現金及び現金同等物期末残高	6	330

加入者およびARPUの動向： 加入者（純増）

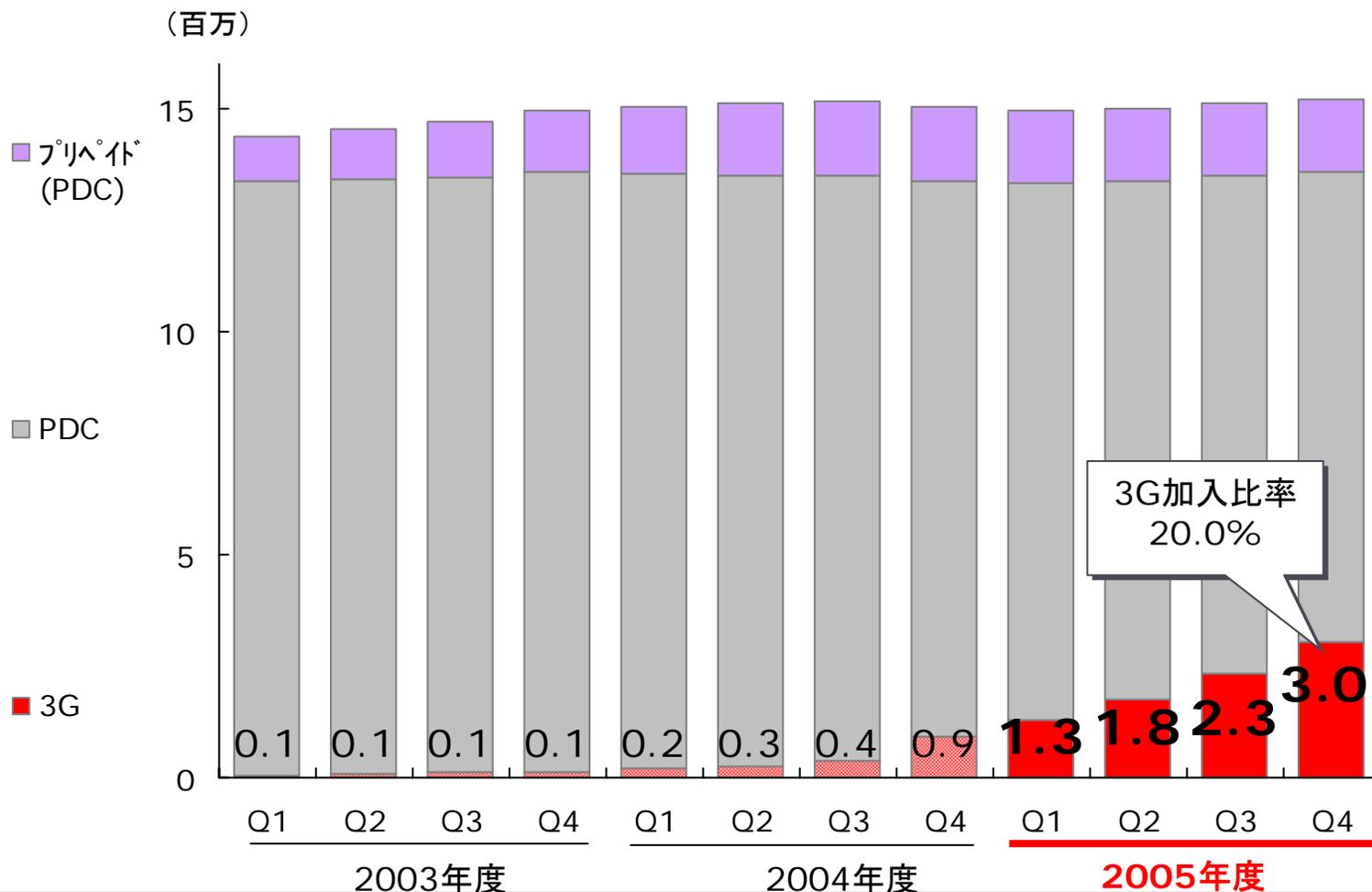
■ 純増数は回復基調へ

2005年度：16.9万 ← 2004年度：8.9万

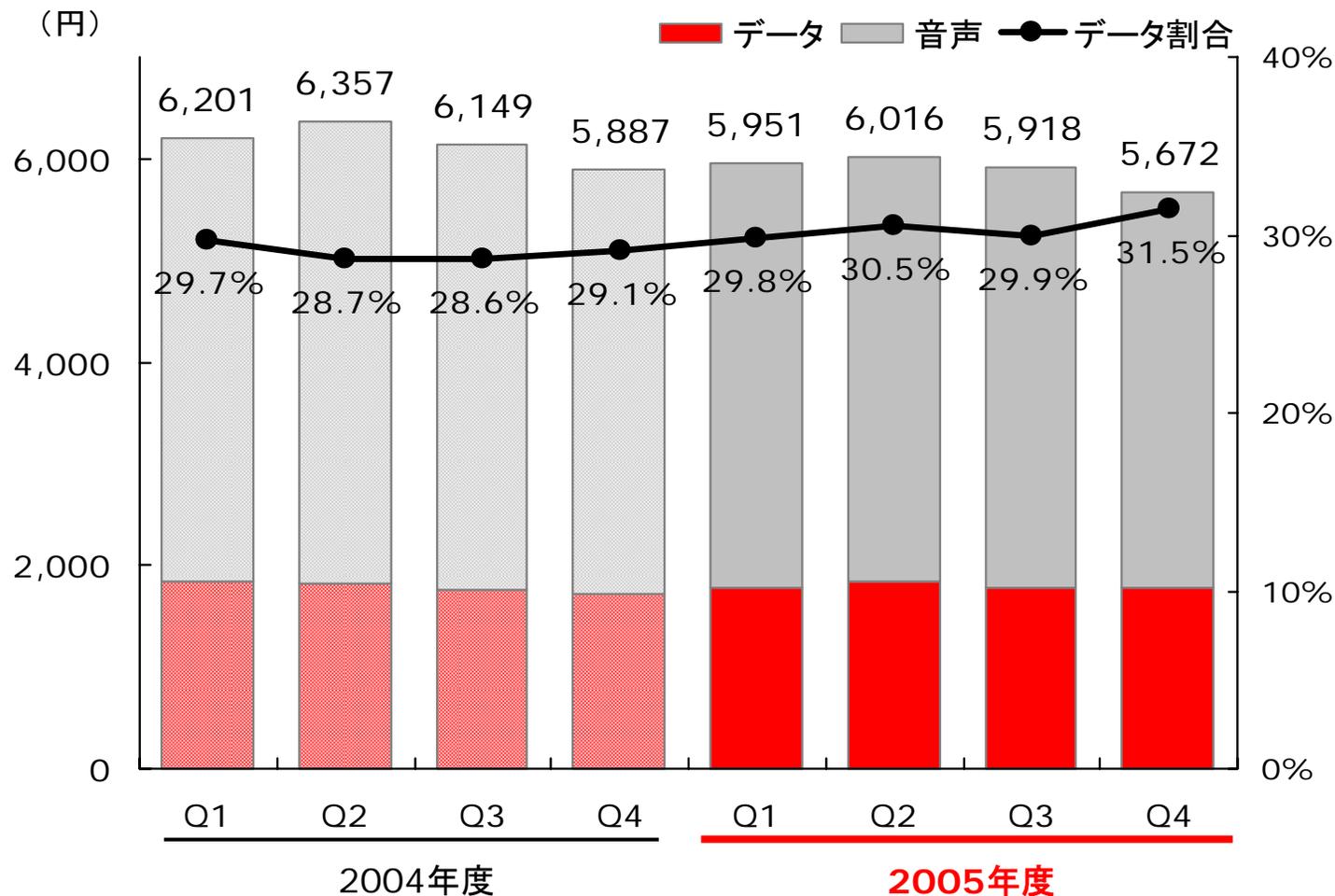


3Gへの移行が加速

2005年度末：304万 ← 2004年度末：92万



■ 3G比率、データARPUの向上がカギ

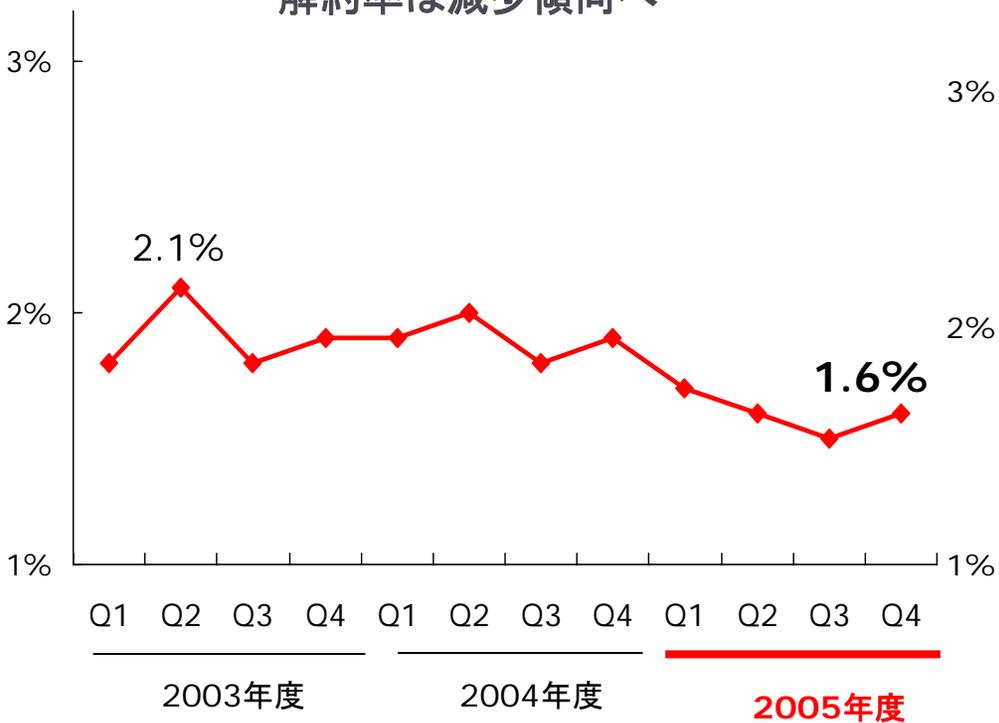


注：2005年度に、ポストペイド顧客の月々の基本使用料の音声とデータへの按分方法について、顧客の利用状況をより正確に反映するよう按分方法の見直しを行った。

解約率、買換率、顧客獲得費用

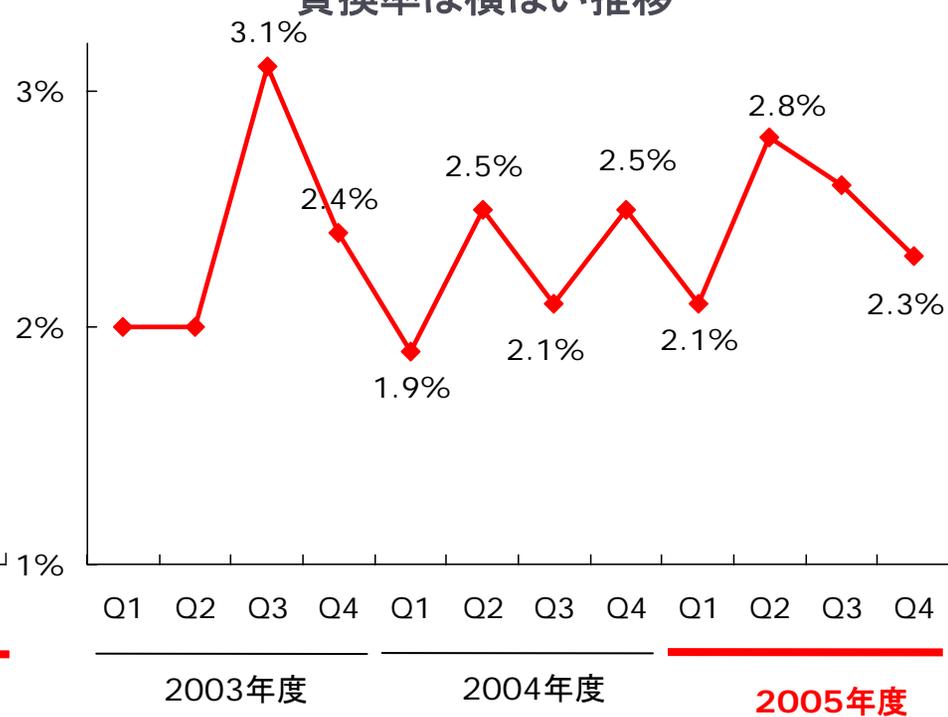
解約率

解約率は減少傾向へ



買換率

買換率は横ばい推移

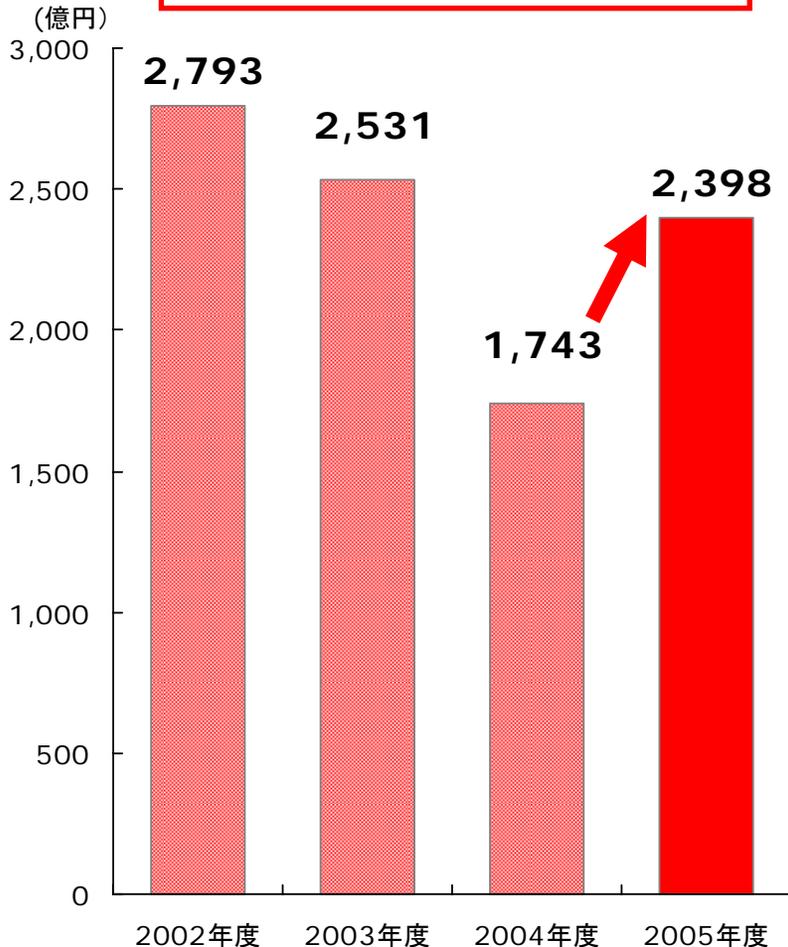


■ 新規顧客獲得費用: 45,000円 (2005年度)

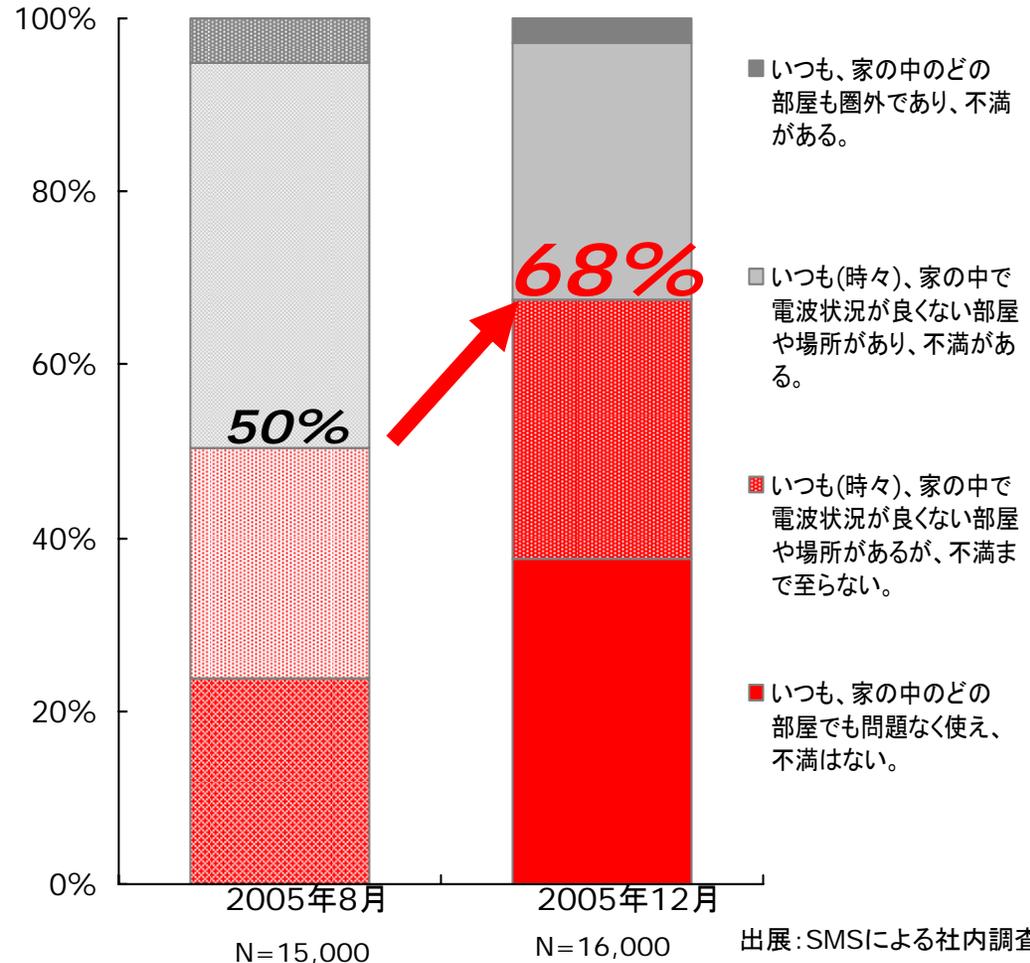
3Gネットワークの増強

3Gネットワークへの投資を増強し、顧客の「つながり感」が向上

設備投資額(計上ベース)



3G顧客ネットワーク満足度



出展:SMSによる社内調査

3G端末ラインアップの拡充

3G端末を続々と導入、ラインアップと機能を大幅に拡充

着うたフル®

Vodafone live! NAVI

おサイフケータイ®
(Felica搭載)

世界最薄3Gケータイ



902T

703SH

903SH

903T

803T

703N

703SHf

702NKII

804SH

904T

804SS

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

3月

2005年度

ワンセグ対応
ケータイ



携帯初超高精細
VGA液晶
904SH



大容量音楽ケータイ
804N



AQUOS ケータイ
905SH



音楽ケータイ
(サマンサタバサ・モデル)
705T



スタイリッシュ・
スリム携帯
705SH

2006年度



ソフトバンクグループへ

4/27 買収完了*

4/28 新社長就任

5/1～ 東京汐留ビルディングにて業務開始

5/18 新ブランド名発表
(10/1変更予定)

【新社名】

ソフトバンクモバイル株式会社

【新ブランド ロゴマーク】

 SoftBank

【新ブランド名称】

ソフトバンク

*BBモバイル(株)がボーダフォン(株)の発行済株式総数の99.54%を取得

SoftBank

ブロードバンド・インフラ

SoftBank BB

BB Technology
SoftBank

固定通信

日本テレコム

SoftBank

移動体通信

vodafone

インターネット・カルチャー

YAHOO!
JAPAN

イー・コマース
その他

SoftBank BB

SoftBank
HAWKS

SoftBank
Technology

Club iT

MOVIDA

GungHo

SoftBank Creative

SBI Holdings

Alibaba.com

TVBank

ネットワーク

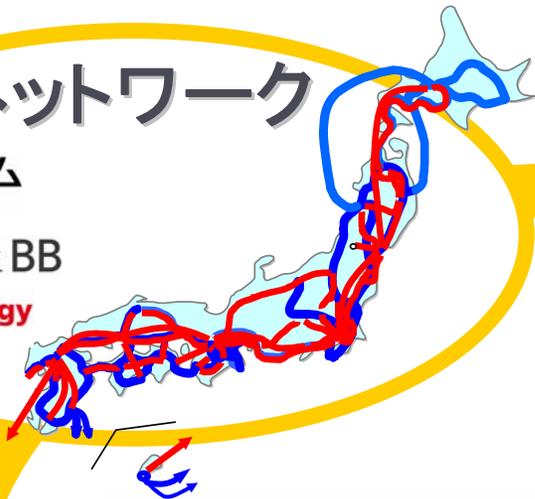
日本テレコム

SoftBank

SoftBank BB

BBTechnology

SoftBank



営業体制

家電量販店



インターネット



顧客基盤

1,000万超の回線数

日本テレコム

YAHOO! BB
JAPAN Broadband

SoftBank

コンテンツ



① 3Gネットワークの増強

② 3G端末の充実

③ コンテンツの強化

④ 営業体制/
ブランディングの強化



SoftBank

ご清聴ありがとうございました

ボーダフォン株式会社

将来にわたる記述について

本プレゼンテーションには、ボーダフォン株式会社及びそれらの子会社（以下、「ボーダフォン日本グループ」）の事業・戦略、財務・営業の結果に関する予想、日本の固定及び移動体通信市場の趨勢や設備投資に関する予測等将来にわたる記述が含まれています。こうした将来にわたる記述は、その性質上当然ながら、予測ないし想定を述べたものに過ぎず、将来の状況に左右されるものであるため、リスク及び不確実性を伴います。

将来実際に発生する事態や状況が、将来にわたる記述において明示したものないし暗黙裡に想定していたものとかかなり異なったものとなる要因には、さまざまなものがあります。例えば、経済の状況が変化し、それによって、ボーダフォン日本グループのサービスに対する需要に悪影響が出るような場合、競争が考えていたよりも激しくなるような場合、顧客数の伸びが鈍化したり、顧客のつなぎとめがより困難になるような場合、ネットワーク容量への投資や、3G技術をはじめとする新技術の利用が設備投資に及ぼす影響、技術的なパフォーマンスが期待値を下回ったり、業者のパフォーマンスがボーダフォン日本グループの要求する水準を満たせない可能性、移動体通信業界における成長率の予測に生じる変化、ボーダフォン日本グループの収益予想モデルの正確性やモデルへの変更、ボーダフォン日本グループが提供するデータサービスの今後の収益に対する貢献度、ボーダフォン日本グループが3Gサービスを中心とする新しいサービスを導入できる能力およびキーとなる商品・サービスの提供及び遂行、ボーダフォン日本グループの活動の規制の枠組みにおける変化、ボーダフォン日本グループその他業界各社を巻き込む訴訟その他の法的手続きの影響、等が挙げられます。

ボーダフォン日本グループないしその代表・代理たる者が、本プレゼンテーション中で、あるいはその後に、将来にわたる記述をなした場合には、書面でなされたか口頭でなされたかを問わず、すべて上述の前提のもとになされたものとします。